

主題：一大自然も治めておられる主ー

2021/10/27(水曜日)

目標：一大自然も従わせる主イエスの本当の姿を知り、主に依り頼むー

キリスト伝

「大自然を支配される主」

第三ガリラヤ伝道 ①

ルカの福音書 8:22～24

マルコの福音書 4:35～41

ここから、主イエスはガリラヤ伝道の第3段階に入られる。

マルコの福音書によると、主イエスは「天国のたとえ」を語り終えられ、群衆が押し迫る中、舟に十二使徒たちだけを同乗させ、湖の向こう岸に渡るように命じられた。主イエスは十二使徒だけに、神であるご自分の本当の姿、力、能力を見せようとしたのである。

本来、大自然は神である主イエスに従うように創られているが、自分の意志を持つ人間は、そうではない。神は自動的ではなく、人が自分の意志で主イエスを信じ、従うことを求めておられる。主イエスこそ、天地の創造者である真の神の子であると信じ、従うことを求めておられるのである。嵐が来ることを知っておられる主は、その嵐の中で彼らを育てられる。

私たちはどうか？不安になるとき、恐れの中であっても、自分の救い主であり、共にいて下さる主イエスを意識し、信頼し、一切をゆだね、従う者になっているだろうか。

[聖書の学び]

I、突然の嵐

1、状況の確認 (ルカ 8:22～24 p128)

- ①「向こう岸へ渡ろう」と言い出された主は、舟に乗られ、どうされていましたか。
- ②静かだったガリラヤ湖の状況はどのように変わりましたか。(v23)
- ③ガリラヤ湖の漁師出身者が多い弟子たちは、何をしていたと思いますか。

2、弟子たちの心理 (マルコ 4:38～39 p73)

- ①嵐で弟子たちが苦労しているときも、主イエスはどうされていましたか？(v38)
- ②自分たちが悪戦苦闘しているとき、主イエスが自分と同じ嵐の中の舟と一緒に
おられることを・・・弟子たちは知っていたと思いますか？
 - ・自分の目の前のことに夢中で、主が共におられることを、気づいていない。

③マルコ 4:38 の弟子たちのことばから、彼らのイライラしている心が分かります。

- ・不安と恐れでいっぱいである。
- ・自分たちは無力である。知恵や努力、で頑張ってもダメだった。
- ・お願いしていないけれど、気づいてくれても良いではないか。

④主イエスは、起こして、お願いしないと聞いてくださらないのか。

Ⅱ、大自然は主イエスの言うことをきく (マルコ 4:39～41)

1、主イエスはただ、風を叱られ、湖に言われたただけである。

①「黙れ、静まれ」と主イエスに言われたら、風と波は「ハイ！」と手を止めた。

②弟子たちは、主イエスはどなただと思ったのでしょうか。(v41)

Ⅲ、常に共におられる神である主

1、主イエスは弟子たちの様子や言葉をみて、何と言われましたか。

2、主イエスは弟子たちが、どのようにすることを求めておられたのでしょうか？

①困難にあったとき・・・

②主イエスに対する信仰（病気も悪霊も追い出し、大自然も支配される方）

3、主イエスは弟子たちの信仰が小さいと言われたのです。成長した弟子たちなら、このような時、どうしたでしょうか。

例えば、使徒パウロは難船したとき、どうしましたか？（使徒 27:22～26 p292）

*** ディスカッション** （心を開いて互いに話し合ってみましょう）

Q. 今日学んだことについて、思うこと、教えられたことを、分かち合いましょう。